



ニッペ クリスタコート
無機系超低汚染コーティング剤

3-904VC3-00-01
日本ペイント株式会社
製品使用説明書

特 長

・水系、非危険物、1液形なので、臭気が少なく、ポットライフがない取り扱いやすい商品です。
・下地適性に優れ、塗装することで無機系の親水性超薄膜が形成されるため、乾燥直後から超低汚染機能を発揮します。

塗 料 性 状

色		無色					
密度(g/cm ³)(23)		0.91					
光 沢		-					
引 火 点		26					
発 火 点		423 (参考値)					
消防法 表 示	化 学 名	水溶性合成樹脂塗料					
	危険物区分	非危険物					
	危険物等級	- (-)					
有 機 溶 剤 区 分		なし					
毒 劇 物 表 示		-					
有 害 物 表 示		-					
ホルムアル デヒド	登録(認証)番号	0804022					
	区 分 表 示	F					
放散等級		問 合 せ 先					
国 連/指 針 番 号		http://www.nsk-web.org/ 1263/128					
環 境 性 能		クロル ^レ リス	配合せず	ホルムアルデヒド	配合せず	トルエン	配合せず
		キシレン	配合せず	パラジクロロベンゼン	配合せず	エチルベンゼン	配合せず
		スチレン(モノマー)	配合せず	フタル酸ジ-n-ブチル	配合せず	テトラヒド	配合せず
		フタル酸ジ-2-エチルヘキシル	配合せず	ダイイソノ	配合せず	アセトアルデヒド	配合せず
		フェノール	配合せず	鉛	配合せず		
T V O C		40.5%					

・塗料性状に記載の数値は、全て代表的な色相、つやを想定しています。

塗 装 基 準							
下 地 調 整		・ほこり、よごれを除去した後、サンドペーパー、ウエスなどで素地を調整する。 ・下地調整仕様による。					
荷 姿		8kg					
希 釈 剤		無希釈					
塗 装 方 法		塗 装 方 法					
		はけ、ウールローラー、エースプレー					
		希 釈 率					
		-					
		使 用 量					
		0.04～0.20kg/m ² /回					

- ・上記の各数値は、標準的な数値です。被塗物の形状・素地の状態・気象条件・希釈率および測定機器・測定方法により増減します。
- ・上記の使用量は、記載の塗装方法で標準的に使用する量を記載しています。必要に応じ、所定の使用量・膜厚になるように使用量・塗り回数を調整してください。
- ・標準塗付量：一般水性塗膜上の場合 0.04～0.08kg/m²/回
砂壁など凹凸吸い込みの大きい面の場合 0.08～0.20kg/m²/回

乾 燥 時 間		5～10		23		30	
指 触 乾 燥		3時間		2時間		1時間	
塗 り 重 ね 乾 燥		-		-		-	

・乾燥時間は目安です。使用量、通風、湿度および素地の状態によって異なります。

特 記 事 項

- ・濃彩色の上には、つやむらが発生するので塗装しないでください。
- ・塗装場所の気温が5 未満、もしくは湿度85%以上である場合、または換気が十分でなく結露が考えられる場合、塗装は避けてください。
- ・液だれしやすいため養生をしっかりと行ってください。また、ローラーで塗装する場合には、ローラーをよくしごいて塗装してください。
- ・クリスタコートを塗装すると、塗装前と比較してわずかに光沢が低下する傾向にあるので、下地の形状などにより、むらとして目立つ場合があります。特に平滑仕上げ面では短毛ローラーなどを使用して、できるだけ均一に塗装してください(平滑仕上げ面での推奨塗装具：短毛ローラー、のりばけ、エースプレー、低圧スプレー)。
- ・各種上塗りの上に塗り重ねる場合には、上塗り塗装後、必ず16時間以上あけてください。塗り重ね時間が短いと仕上がりが不良、性能低下などの原因になります。
- ・塗り忘れ部分には、汚れが発生する可能性があります。塗装は、目地、面、足場板などで区切って行い、休憩などで塗装を中断する場合には、テープなどで目印をつけてください。
- ・研磨、高圧洗浄など物理的に負荷をかけた場合、性能を発揮しなくなるおそれがあります。
- ・シーリング材からの可塑剤の流出が多い場合など、汚れの負荷が大きい場合には、十分な効果が発揮できない可能性があります。またさび汁汚染、鳥糞などに対しては効果を発揮しません。
- ・本品は水性のコーティング剤ですが、アルコールを含んでいるため若干のアルコール臭がします。

注 意 事 項

- ・被塗物の構造、部位、塗装仕上げ形状、環境条件などの影響で、本来の低汚染機能が発現されない場合があります。
- ・素地の乾燥は十分に行ってください。
- ・屋外の塗装で降雨、降雪のおそれがある場合、および強風時は塗装を避けてください。
- ・塗装時および塗料の取り扱い時は、換気を十分に行い、火気厳禁にしてください。
- ・飛散防止のため必ず養生を行ってください。
- ・シーリング面への塗装は、塗膜の汚染、はく離、収縮割れなどの不具合を起こすことがありますので行わないでください。やむを得ず行う場合は、シーリング材が完全に硬化した後に行うものとし、塗り重ね適合性を確認し、必要な処理を行ってください。また、ニッペブリードオフプライマーを下塗りすることで、可塑剤移行による汚染の低減が図れますが、シーリング材の種類、使用条件などによりはく離、収縮割れが起こることがあります。
- ・笠木、天端など長時間水が滞留する個所では塗膜の白化、膨れなどが発生する場合がありますので、養生シートの設置方法などに配慮し、換気を促してください。
- ・ローラー、はけなどは、ほかの塗料での塗装に使用すると、はじきなどが発生するおそれがありますので、十分に洗浄するか、専用でご使用ください。
- ・可塑剤が多く含まれる塩ビクロス、塩ビゾル鋼板、塩ビラミネート、プラスチック、ゴムパッキン、合成皮革などへの直接塗装はお避けください。また、これらの部材に塗膜が直接触れることがないようにご注意ください。
- ・塗料漏洩の原因になりますので、保管・運搬時に容器を横倒しにしないでください。
- ・製品の安全に関する詳細な内容については、安全データシート（SDS）をご参照ください。

本書類の内容については、予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

本書類中の製品名・会社名は、日本ペイント株式会社、その他の会社の、日本およびその他の国の登録商標または商標です。

Copyright (c) 2014 Nippon Paint Co., Ltd. All rights reserved. この書類に対する加筆、修正はご遠慮ください。